

特定地域振興重要港湾  
出雲河下港振興ビジョン



令和5年（2023）5月

出雲河下港振興会

# 特定地域振興重要港湾 出雲河下港振興ビジョン

## 《 目 次 》

1. 出雲河下港の現状と課題	1
2. 出雲河下港が取り組む基本方針	3
2.1 基本方針	3
2.2 空間利用計画	4
2.3 戦略と具体的取組・展開	5
2.4 目標指標と目標年次（達成目標）	11

## 振興ビジョン策定にあたって

出雲河下港振興会 会長 飯塚 俊之  
(出雲市長)

出雲河下港は、古くは松江藩時代より周辺地域から産出される鉱産物の積出港として利用されてきました。

現在は、中国地方唯一の「特定地域振興重要港湾」として、地元石材の移出、建設資材や、LPGの移入などの物流拠点であるとともに、耐震強化岸壁が整備された防災拠点としての機能を有する、県東部の重要な物流防災拠点港湾であります。

「出雲河下港振興会」は、平成22年5月に「出雲広域拠点港促進期成同盟会」「河下港利用振興協議会」の発展的改組により新たに発足し、今日まで地域経済の発展に資することを目指して、情報収集・ポートセールス・広報宣伝活動による利用促進、港湾諸施設の整備の促進などの各種活動を積極的に展開してまいりました。

この度、島根県において平成21年度から進められてきた、念願の沖防波堤が完成を迎えるのを期に、今一度、出雲河下港の現状や課題を整理し、それらを解決するための取組方針として、短期から中・長期を見据えた出雲河下港の将来像を具体的に描いた振興ビジョンを策定しました。

今後は、振興ビジョンに掲げた取組を積極的に推し進め、地域に欠かすことができない重要かつ愛される港湾として、出雲河下港の益々の発展に尽力してまいります。

振興ビジョン策定にあたりご協力いただいた関係機関および関わっていただいた方々にお礼を申しあげ、策定にあたってのご挨拶といたします。

# 1. 出雲河下港の現状と課題

出雲河下港は、中国地方唯一の「特定地域振興重要港湾（※）」であり、地元石材の移出、県東部の建設資材等の移入はもとより、浜田市から鳥取県米子市まで約 15 万世帯に供給する L P G の移入及び保管基地として利用されるなど、地域の経済や地域住民の生活に欠かすことのできない、県東部地域の重要な物流拠点です。

また、既に 7. 5 メートルの水深を有する耐震強化岸壁が整備されており、県の地域防災計画上の防災拠点港湾として位置付けられている中国地方において重要な港湾です。

※：特定地域振興重要港湾

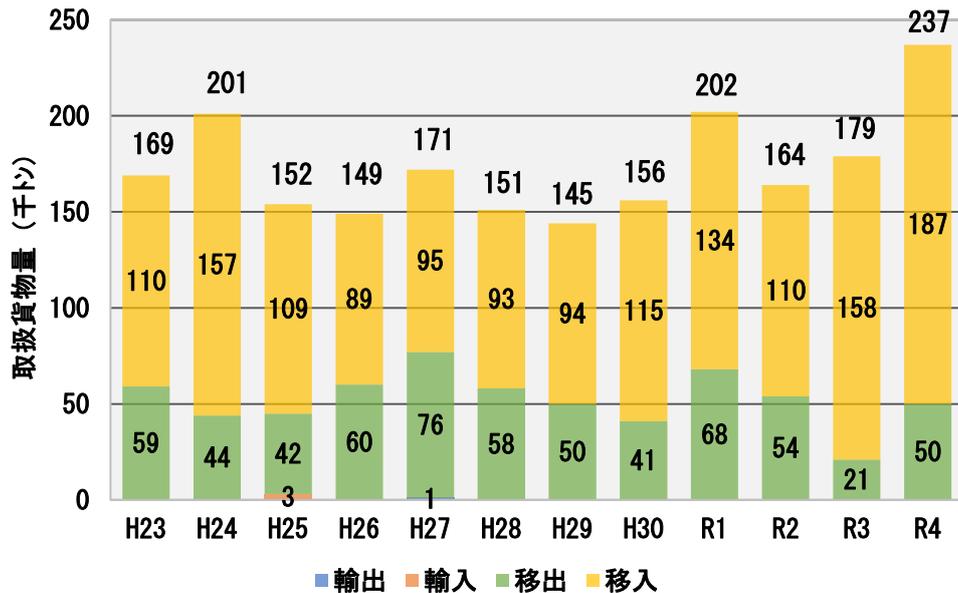
地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される港湾として国が指定した港湾で、国内 13 港湾が指定されている。

## 1.1 現状

垂水地区、小津地区の利用状況及び平成 23 年以降の取扱貨物量の推移は下図のとおりです。



図 1 垂水・小津地区の利用状況



出典：島根県

図2 取扱貨物量の推移

## 1.2 課題

出雲河下港の現状や社会情勢の変化などを踏まえ、今後の課題を「物流・産業」、「防災」、「人流・賑わい」の3つに分類し整理しました。

今後、これらの課題解決に向けた取り組みを行います。

### ① 物流・産業

- 将来の取扱貨物量の増加に伴い、既存岸壁のみでは扱いきれない貨物量の発生が予想されること、海上貨物輸送の効率化を図るため船舶の大型化が進んでいることから、これらに対応した物流機能の強化が求められている。
- 近年、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが進められており、出雲河下港においても同様の取り組みが求められている。



### ② 防災

- 船舶の大型化が進んでいる中で、既設岸壁の規模のみでは護衛艦等の接岸に対応できないことから、大規模災害に備えた防災機能の強化が求められている。
- 災害時の被害を最小限に抑えるため、災害時の救助・救護活動、緊急物資の輸送等、大規模災害時の拠点港としての機能強化が求められている。

### ③ 人流・賑わい

- 出雲市ではクルーズ船の誘致に積極的に取り組んでいるが、既設岸壁の規模では3万トン級のクルーズ船に対応できないことから、クルーズ船の受入に対する環境整備が求められている。

○出雲河下港には魅力的な海岸資源が点在しており、それらを利用した親水空間の創出が求められている。



■河下海水浴場

## 2. 出雲河下港振興に向けて取り組む基本方針

### 2.1 基本方針

出雲圏域の海の玄関口として港湾機能の更なる強化を図るため、出雲河下港の将来像について以下の3項目を柱とし、地域産業と住民生活を支えるとともに、地域の活性化に寄与することを目指します。

～出雲圏域の海の玄関口「出雲河下港」の  
さらなるパワーアップを目指します～

物流・産業

出雲地方の産業・生活を支える港湾

防 災

災害時に出雲地方の人々の安心な暮らしを維持する港湾

人流・賑わい

豊富な観光資源と自然環境を活用し人々をつなぐ港湾

図3 出雲河下港の将来像

## 2.2 空間利用計画

出雲河下港の将来像は、物流・産業面においては、「出雲地方の産業・生活を支える港湾」、防災面においては「災害時に出雲地方の人々の安心な暮らしを維持する港湾」、人流・賑わい面においては「豊富な観光資源と自然環境を活用し人々を繋ぐ港湾」の実現に向けて、物流・産業、防災、人流・賑わい等のエリアを下図のとおり設定し、各取組を展開します。

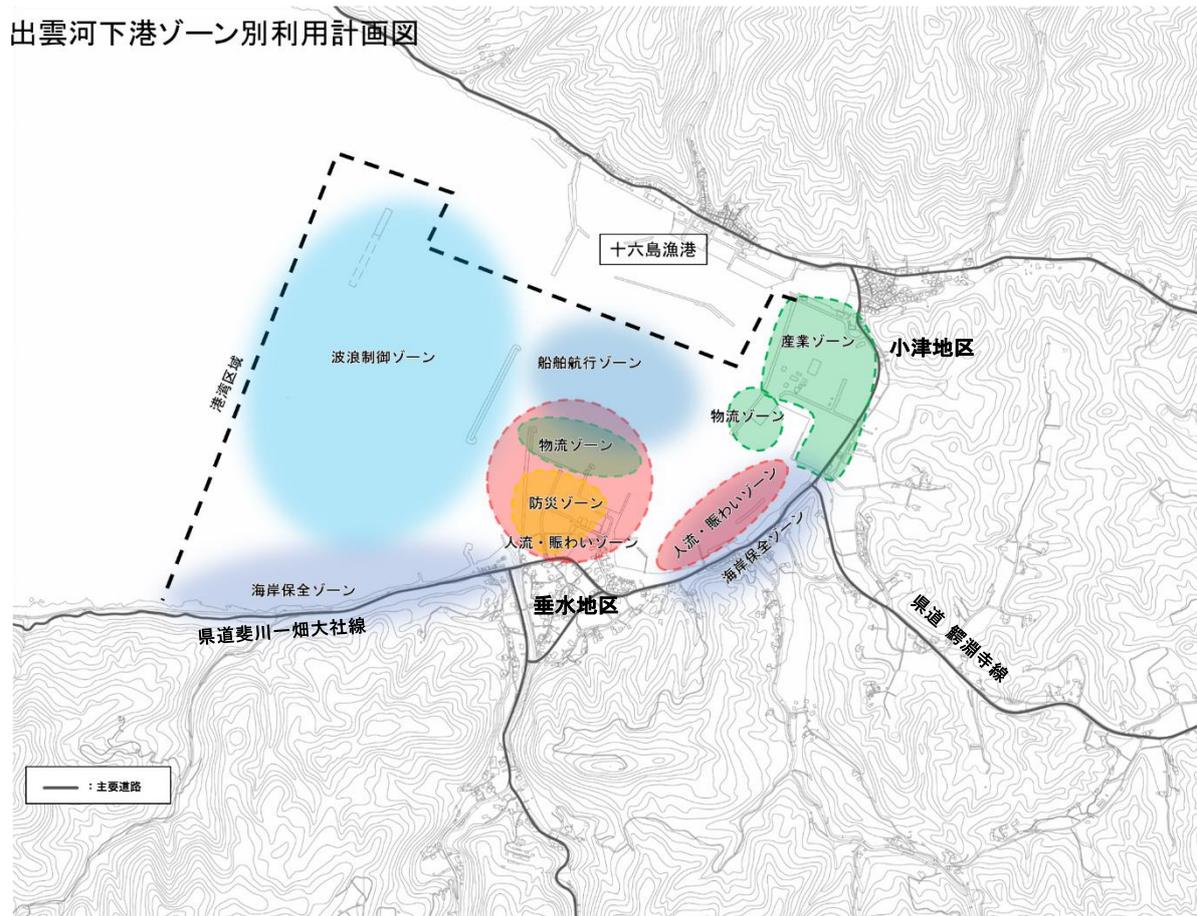


図4 出雲河下港の空間利用計画（機能配置ゾーニング）

定義

物流ゾーン	垂水地区、小津地区
産業ゾーン	小津地区
防災ゾーン	垂水地区
人流・賑わいゾーン	垂水地区、小津地区
海岸保全ゾーン	垂水地区、小津地区
波浪制御ゾーン	垂水地区、小津地区
船舶航行ゾーン	垂水地区、小津地区

## 2.3 戦略と具体的取組・展開

出雲河下港の将来像の実現に向け、物流面、防災面、交流面のそれぞれにおいて、以下のとおり基本戦略を設定します。

### (1) 物流・産業

「出雲地方の産業・生活を支える港湾」を実現するため、次の基本戦略を掲げ、実現に向けて取り組みます。

1－1	貨物の増加に対応した物流機能強化
1－2	脱炭素社会の実現に貢献する港湾の形成

### (2) 防災

「災害時に出雲地方の人々の安心な暮らしを維持する港湾」を実現するため、次の基本戦略を掲げ、実現に向けて取り組みます。

2－1	船舶の大型化に対応した防災機能強化
2－2	大規模災害時の拠点としての機能強化

### (3) 人流・賑わい

「豊富な観光資源と自然環境を活用し人々を繋ぐ港湾」を実現するため、次の基本戦略を掲げ、実現に向けて取り組みます。

3－1	クルーズ船に対応した受入機能強化
3－2	来訪者や市民が親しめる親水空間の創出

次頁以降、各戦略を推し進めるための施策と、具体的な取り組み内容、時期（短期（～5年）、中期（5～10年）、長期（10年～））について整理します。

## (1) 物流・産業

1 - 1	貨物の増加に対応した物流機能強化
-------	------------------

出雲河下港は、浜田市から鳥取県米子市まで約 15 万世帯に供給する L P G の移入及び保管基地として利用されるなど、地域の経済や地域住民の生活に欠かすことのできない、重要な物流拠点です。

取扱貨物の増加に対応した岸壁・泊地整備や物流機能の強化にあわせた港内静穏度確保、新規貨物の取り扱いに対応した上屋・荷役機械整備、斐川 I C から出雲河下港までのアクセス道路の改良整備、企業への訪問・企業立地セミナー等を活用したポートセールス等の施策を推進していきます。

具体的には、県外等からの貨物量の増加や運送コストを下げるための船舶の大型化に対応するため、垂水地区において大型の船舶が接岸できる岸壁の整備に取り組みます。

また、ポートセールス等を通して、新たな取扱貨物の掘り起こしを行い、必要に応じてニーズに対応した上屋・荷役機械の施設を整備していきます。

加えて、物流効率化に向けた取り組みとして、斐川 I C から出雲河下港までのアクセス道路の整備を要望していくとともに、利用可能性企業へのポートセールスを強化していきます。

	取組内容	具体取組	取組時期			地区
			短期	中期	長期	
1	取扱貨物の増加に対応した岸壁・泊地・野積場の整備	ア) 取扱貨物の増加及び船舶の大型化に対応した岸壁・泊地・野積場の整備の促進	▶			垂水
2	物流機能強化にあわせた港内静穏度の確保	ア) 港内静穏度の調査 イ) 必要に応じた静穏度確保の対策実施		▶▶▶		垂水 小津
3	新規貨物の取り扱いに対応した上屋・荷役機械整備	ア) 上屋・荷役機械等のニーズの把握 イ) ニーズに基づく上屋・荷役機械等の整備		▶▶▶		垂水
4	斐川 I C から出雲河下港までのアクセス道路の改良整備	ア) 物流効率化に向けた取り組み(道路改善要望等) 一般県道 鰐淵寺線		▶▶▶▶▶		垂水 小津
5	企業への訪問、企業立地セミナー等を活用したポートセールス	ア) 利用可能性企業へのポートセールスの強化			▶▶▶▶▶	垂水 小津

時期 (短期 (～5年)、中期 (5～10年)、長期 (10年～))

小津地区では、太陽光発電事業者が進出するなど、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを行っています。

ウクライナ情勢をはじめとしてエネルギーを取り巻く国際的な環境が大きく変動する中、電気料金の高騰が経済活動に多大な影響を及ぼしています。

出雲河下港周辺地域の電力の安定・安価な供給と脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギー発電事業者の誘致の施策を推進していきます。また、再生可能エネルギーにて発電した電源を用いた港湾施設の導入や出雲河下港関連施設への太陽光パネル設置等の検討を行います。

具体には、中国・四国地方にあるバイオマス発電、太陽光発電などの発電事業者にポートセールスを行うとともに、発電事業者と連携し、いずれも縁結び電力会社への電力供給及び同社から市内公共施設への電力供給を図る地産地消を目指します。

また、国においては「国際海運のゼロエミッションに向けたロードマップ」を2020年3月に作成し、2028年までに温室効果ガスを排出しない究極のエコシップ「ゼロエミッション船」の商業運航を目指しており、その動向を注視します。

	取組内容	具体取組	取組時期			地区
			短期	中期	長期	
1	再生可能エネルギー発電事業者の誘致	ア) 再生可能エネルギー発電事業者の誘致活動	→			小津
2	再生可能エネルギーを用いた施設導入	ア) 他港におけるカーボンニュートラルポートへの取り組みに関する情報収集 イ) ニーズ把握、太陽光パネル等の施設の導入検討	→			垂水 小津

時期（短期（～5年）、中期（5～10年）、長期（10年～）



	取組内容	具体取組	取組時期			地区
			短期	中期	長期	
1	常設ヘリポートの整備	ア) 常設ヘリポートの整備に向けた検討・調査の実施	➡			垂水
2	海上自衛隊艦艇の物資補給基地の誘致	ア) 地元経済への波及効果を期待できる海上自衛隊艦艇の物資補給基地の誘致	➡			垂水

時期（短期（～5年）、中期（5～10年）、長期（10年～）

### （3）人流・賑わい

3-1	クルーズ船の受入体制の強化・環境整備
-----	--------------------

出雲地域には、歴史ある街並などの文化遺産、地域のブランド食材・食文化など、多様で魅力ある観光資源が豊富に存在しており、特に出雲河下港は、縁結びの神様として名高く、神話のふるさと出雲を象徴する出雲大社や、木綿の集積地として栄えた趣のある木綿街道などの観光名所から近い位置に立地し、周遊観光に適した港湾です。

これらの豊富な観光資源と美しい自然環境を最大限に活用し、クルーズ船が寄港する賑わいのある港湾を目指します。

そこで、クルーズ船の誘致活動、3万トン級のクルーズ船に対応した環境整備を推進していきます。

具体には、関係機関、船社等と連携し、クルーズ船の誘致に向けて取り組みます。

また、3万トン級のクルーズ船の寄港に対応した岸壁・泊地の整備に取り組みます。

#### ※3万トン級クルーズ船

○にっぽん丸（総トン数 22,472 t ・ 全長 166.65m ・ 型幅 24.00m ・ 乗員乗客 754 人）



	取組内容	具体取組	取組時期			地区
			短期	中期	長期	
1	クルーズ船の誘致	ア) クルーズ船の受入に向け、関係機関（県、中国地方整備局）、関係団体（観光協会、商工会議所等）、地元住民等との連携した取り組みの推進 イ) 船社、関係機関等との情報共有体制の強化 ウ) 地元経済への波及効果を追求した環境の整備・メニューの構築	→			垂水
2	3万トン級のクルーズ船に対応した環境整備	ア) 3万トン級のクルーズ船の寄港に対応した岸壁・泊地の整備	→			垂水

時期（短期（～5年）、中期（5～10年）、長期（10年～）

<b>3-2</b>	<b>来訪者や市民が親しめる親水空間の創出</b>
------------	---------------------------

出雲河下港は、静穏で美しい港湾であるとともに、夏季には海水浴場として利用されている砂浜があり、来訪者や市民が親しめるポテンシャルを秘めています。

そこで、市内外から多くの来訪者がマリレジャーを楽しみ、集うことのできる港湾を目指し、親水施設整備等の施策を推進していきます。

具体には、海水浴場、海釣りエリアの賑わい創出に向けて検討します。また、ファミリーで気軽に釣りを体験できるフィッシングパークやプレジャーボートの係留地の整備を検討するとともに、トイレ棟及び炊事場を備えた海浜キャンプ場の整備を検討します。

加えて、マリレジャーのイベント開催に向けて取り組みます。

	取組内容	具体取組	取組時期			地区
			短期	中期	長期	
1	マリレジャーが楽しめる親水施設整備	ア) 釣り栈橋又は釣り堀を利用したフィッシングパークやプレジャーボートの係留地の整備及び施設の運営に向け、漁業協同組合等関係者との検討 イ) キャンプ場・親水施設の整備の検討 ウ) マリレジャーのイベント開催に向けた関係団体、地元関係者との連携	→			垂水 小津

時期（短期（～5年）、中期（5～10年）、長期（10年～）

## 2.4 目標指標と目標年次（達成目標）

取組に関する目標指数、目標年次（達成目標）を定めます。

柱	目標指標	現状値（R3）	目標値（目標年度）
物流・ 産業	取扱出入貨物量（年間）	178,591 t	230,000 t（令和6年度） 280,000 t（令和11年度）
	利用船舶数（年間）	175隻	180隻（令和6年度） 185隻（令和11年度）
	再生可能エネルギー発電事業者の 誘致数	—	1事業者（令和14年度）
防災	海上自衛隊護衛艦の接岸回数 （年間）	—	1回（令和9年度）
人流・ 賑わい	クルーズ船の誘致客船数	—	1隻（～令和9年度）
		—	1隻／2年（令和10年度～）
	マリンレジャーのイベント開催数	—	1回（～令和9年度） 1回／年（令和10年度～）

(参考) 出雲河下港振興ビジョン 策定機関

所 属	
島根県	
	商工労働部 商工政策課
	商工労働部 企業立地課
	土木部 港湾空港課
	出雲県土整備事務所 維持管理部
	出雲県土整備事務所 土木工務部
平田商工会議所	
	経営支援課
出雲市	
	都市建設部 建設企画課
	商工振興部 商工振興課
	商工振興部 産業政策課 <事務局>
国土交通省中国地方整備局	
	境港湾・空港整備事務所 <オブザーバー>



### 【問い合わせ先】

#### ・ 出雲河下港振興会事務局

出雲市 商工振興部 産業政策課

住所 出雲市今市町70番地

電話 0853-21-2211 (代)

#### ・ 港湾管理者

島根県 土木部 港湾空港課

住所 島根県松江市殿町8番地

電話 0852-22-5201 (代)